

第5章 これからの取り組みに向けて

① 様々なまちづくりの動きに対して

今回の提案では、同時に進行している様々なまちづくりの取り組みに対して、明確な考え方を提案するまでには至りませんでした。しかしながら、浮島地区の開発、青年会議所などが提案したキャンプ場、市民健康の森については、次のように考えます。

●浮島地区の開発に対して

整備が予定されている浮島町地先は市の所有地ですが、現在その立地特性を活かした場所となるように、手塚ワールドや市民健康の森など、いろいろな観点から検討が進められているようです。どのような利用とするにせよ、市民にとってより良い場所となることを基本として、情報を広く公開し、市民の考え方や意見を聞きながら検討を進めていくべきです。

●キャンプ場に対して

青年会議所などの活動によって、市が検討し、この夏からバーベキューができるキャンプ場が臨海部のマリエン横の中公園に開設されました。私たちが一つ一つ着実に検討していることがなかなか実現しないのに対し、発言力のある団体の提案がすぐ実現するといったジレンマもあります。いうまでもなく、今後は市民からの提案をきちんと受け止めるための仕組み・手続きを用意して、どんな団体からの意見でも平等に対応すべきです。

●市民健康の森に対して

市民健康の森については、川崎区構想区民提案づくりと並行して作業が進められており、現在候補地を検討しています。実現に際しては、誰もが利用しやすいところとし、また運営管理などについても十分に検討されるべきです。

② すぐ取り組むこと、長期的に取り組むこと

区民提案では、概ね20年を目標に実現することを提案していますが、私たちの提案シートの中では、すぐ取り組むことと長期的に取り組むことを提案しています。

〔すぐ取り組むこと 例えば・・・〕

- ・実現に向けての調査・計画づくり
- ・補修工事に合わせ、住民参加によるより良い道路計画の検討と整備
- ・植樹運動や「ゴミゼロ運動」などの活動

など

[長期的に取り組むこと 例えば・・]

- ・事業費のかかる幹線道路の整備など
- ・臨海部の再編成など継続的に進める
- ・住宅地の防災対策 など

今後は、すぐに取り組むこと、長期で取り組むことのめりはりをつけつつ、すぐできることについては、できるだけ早く取りかかることが大切であると考えます。

③ 区民の役割、企業の役割、行政の役割

今後のまちづくりにおける区民、企業、行政の役割分担についても検討しました。

私たち区民の役割は、まちの美化運動、植樹運動など日常生活に密着した継続的な活動をおこなうことです。

今回の提案の中には、企業の協力なしには実現しないことも盛り込まれています。地元の企業は、これまで川崎区の発展とともに歩んできました。企業が企画した市民参加イベントの開催も毎年行われていますが、あまり知られていません。企業ももっと活動をアピールし、区民の一員としてまちづくりに参加して欲しいものです。

行政の役割は、これまでのまちづくり活動における提案も含めて、計画を実現していくことです。そのためには、行政内部の各担当課の調整が重要となります。さらに、様々な計画について区民に情報を公開していくことも行政の大切な責務です。

平成4年からは3カ年かけて「企業市民交流調査」が実施され、区民、企業市民そして行政の話し合いの場が持たれました。しかし、まだまだ交流は十分とはいえません。まずは、区民、企業、行政がお互いをもっとよく知るため、また情報交換をするために話し合いの場を持つことから始めることが大切です。その牽引役は行政が積極的に行うことを希望しますが、区民も企業もそれぞれの役割をふまえつつ、すぐできることから始めていくことが大切です。

④ 区民のまちづくり活動に対して

今回のワークショップには、次の時代を担う若者の参加がほとんどありませんでした。これは、ワークショップの開催時間が平日の夜や土曜日であったことも関係していると思います。今後は、まちづくりに興味がない人に対しては、まずはまちづくりの大切さを知ってもらうことと共に、まちづくりに興味はあるけれど参加できない人へは、参加できるような方法を考えていくことが大切です。そのためには、若者や若いお母さんが集まっている所へ出張して話し合いを持つなど、誰もが参加できる仕組みづくりが今後の区民参加型のまちづくりを考える上で重要なことです。

おわりに

約1年半の期間を費やし、計9回のワークショップを通してみんなで意見を出し合って、ようやくここに区民提案をまとめることができました。26名という人数ではありますが考えていることは多様であり、数々の提案がでてきました。またそれと同時に個々の考えを持った人々が集まって議論をし、区民提案としてまとめることの難しさも痛感しています。

川崎区民約19万人のうちの26人というのは数にするとわずかかもしれません。もっと多くの区民の皆さんと区民提案を作っていくたかったというのが正直な気持ちです。しかし、皆さんの川崎区に対する想いと私たちの想いはそう違わないのではないかと考えています。今後は提案を提案で終わらせるのではなく、未来のまちのすがたを実現していくためにできるだけ多くの区民のみなさんにこの提案を知ってもらい、提案を後押しして欲しいと考えています。また、川崎区で働く人々、若い世代や子どもたちがどんなまちに憧れているのか話し合っていくことも今後の川崎区を考える上で大切なことだと思います。

区民提案が公表された今、市は区民提案の内容を一つ一つ検討し、川崎区構想に反映させて欲しいと思います。そしてこの区民提案を受けて川崎区のまちづくりにどのように取り組むのかを、私たちにわかるように情報公開し、意見交換の場を設けて欲しいと考えています。

●区民ワークショップに参加した区民のみなさん（50音順・敬称略）

五十嵐	松	平		渋谷	晃	諦		野	地	博	一
金岩	勇	夫		鈴	和	子		林	田	園	治
金沢	和歌	子		須	令	子		原	田	歩	夫
河合	博	子		高	井	亨		藤	井	恒	明
鬼多見	國	郎		高	橋	玲		山	田	明	孝
小茂田	叡	宏		田	辺	順	太	吉	沢	節	子
斉藤	親	一		田	辺	富	夫	吉	野	知	人
佐々木	玲	吉		中	村	紀	美	三	浦		
篠原	修	一		中	村	隆	男				

資料：用語集

あ行

浅野総一郎

明治から大正にかけて現在の京浜工業地帯の中心部である川崎、鶴見の臨海工業地帯をつくった人物。

アセスメント

環境などを事前に評価すること。一般的には、環境アセスメントの意味で用いられることが多い。

編笠事件

1914年（大正3年）、当時村会議員であった秋元喜四郎を筆頭とした多摩川沿岸町村の農民が、洪水で被害を受けた堤防の新設の要望を出すために県に直接交渉にいった事件。この時、各村の15才以上の男子はわらじをはき、編笠をかぶって集まった。

池上幸豊

江戸時代中期の大師河原村名主で新田開発や塩田経営を行った人物。

か行

ガイドボランティア

文化財や史跡のガイドをおこなうボランティアのこと。現在、川崎大師観光ボランティアガイドなどが活動している。

川崎海の歴史保存会

平成9年に発足。元川崎漁業の組合員さんたちが中心になり、川崎市の漁業の記憶やのりづくりの伝統を伝えようと、小学校を対象にのりづくり体験学習を実施したり、貴重な漁業の多数資料を収集保管、展示する活動などを行っている。

川崎縦貫道路

川崎市の細長い地形を貫く背骨の役割を果たすと共に首都圏の各地域を結ぶ幹線道路のことで、高速湾岸線・東京湾横断道路に連結する浮島ジャンクションと、国道15号、国道1号を経て、第三京浜、東名高速を結ぶ。現在第1期分として国道15号～浮島町地先まで事業を行っている。

グリーンベルト

緑地帯、道路際の植え込みのこと。

さ行

サンクチュアリ

禁猟区、野鳥の森などのこと。

市民健康の森

緑の保全と創出や創造、健康とレクリエーションの場、コミュニティづくり、都市防災機能などの性格を併せ持つ森のことで、川崎市が各区に1カ所ずつ整備を計画している。候補地の選定から森の保全・整備までを市民と行政が協働で行っている。

終末処理場

下水道施設の一つ。下水を最終的に処理して、河川その他の公共の水域または海域に放流するために設けられる処理施設のこと。

商店街活性化事業

地域商業の魅力向上と活性化をめざし、商店街のモール化等の環境整備を進めるとともに、地域との連携に基づく、賑わいイベント事業や活性化事業、高齢者や障害者にも対応したやさしい商店街づくりなどを行う事業のこと。

水上バス

川崎市は1998年から「多摩川水上バス」を7、8月に運行している。航路は川崎発着場（幸区幸町2丁目）から多摩川を下り、東京湾の浮島・羽田沖を経由し、青海客船ターミナルまでの片道22 kmとなっている。

ストリートファニチュア

主に都市において街路を構成するさまざまな要素（主に屋外家具類）をいう。例としては街灯、ベンチ、植栽台、標識（サイン）、キオスク（街路上の広告塔、電話ボックス、新聞スタンド、売店、バス停、切符売り場等）、水飲み場、時計塔、彫刻などをあげることが出来る。

SOHO（ソーホー）

都心の職場に通わなくても、自宅近くに開設された小型のサテライト・オフィスや、自宅（在宅勤務）で情報機器を駆使して仕事を行うこと。Small Office Home Officeの略。

た行

道路景観整備事業

川崎市で、清潔で明るいイメージづくりを目標とした都市基盤の整備の一環として、また市民生活や文化環境の質的向上を図る事業として進めているものです。すでに富士見通りモールや市役所通りモール、新川通りモールなどが完成しています。モールとは、本来「木陰の多い散歩道」を意味しており、モール化によって人と車をできるだけ分離し、安全で快適に歩けるよう配慮された空間となります。

手塚ワールド

平成10年5月に手塚ワールド研究会が川崎市臨海部に候補地を決定したプロジェクト「（仮称）手塚治虫ワールド」のこと。現在事業主体（民間）確立にむけ検討を進めている。

土地区画整理事業

都市計画区域内の土地について、公共施設の整備改善及び宅地の利用増進を図るために行われる土地の区画形質の変更や公共施設の新設又は変更に関する事業。事業の仕組みは、道路、公園などの公共施設用地を確保するために土地所有者から各々の土地について、従前に比べ利用価値が上がったことで、その増進の範囲内において土地として提供してもらい（減歩）、宅地の形を整えて交付する（換地）ものである。

な行

ニュー下町

「川崎臨海部21世紀懇談会」よりの答申の中で示された考え方で、下町的コミュニティがもつ庶民性と歴史・文化性を活かしたにぎわいのある街並み形成を図るとともに、新時代のニーズに対応した居住環境の整備を進めていく地区のこと。

ノーマライゼーション

障害者などを特別視しないで、普通の人と同じように受け入れ、必要な処置をするという考え方。障害のある人々が、障害のない人々と同等に生活し、活動する社会を目指す理念。

は行

ハイテク

high technology の略。先端技術の、高度技術の。

バリアフリー

高齢者や障害者の行動・生活上の障害を取り除いた環境のこと。

PC

Personal Computer の略。マイクロコンピュータを応用した個人用の小型コンピューター・システムのこと。通称「パソコン」。

フィールドアスレチック

フィールド（野外）とアスレチック（体育）を合わせた用語。自然の中で、木に登ったり、ぶらさがったり、丸木橋を渡ったりする野外スポーツの一つ。

防災ネットワーク事業

地域に密着した防災体制を確立するため、中学校区単位の防災ネットワークづくりを進めるとともに、自主防災組織の育成を図る事業のこと。

ホスピタリティ

もてなしのよいこと。

ま行

まちづくりクラブ

川崎区で区づくり白書をつくる際に発足した区民組織で、区内を10地域に分けて活動した。その後「区づくり白書の実現をめざす、区民の、区民による、区民のためのまちづくり組織」として新たに発足し、自由で自主的な活動を大切に、地域ごとに身近なまちづくりを進める組織として活動している。

まちづくりクラブ
活動地域区分図



や行

ユニバーサルデザイン

みんなが快適に利用できる製品や機能などのデザインのこと。

ら行

リフレッシュパーク事業

近隣・地区公園の中で既存施設の老朽化が著しい公園を、市民とのパートナーシップにより魅力ある公園として再整備を進める事業。

臨海鉄道

東海道貨物支線等を旅客化して活用する臨海部の鉄道路線のことで、みなとみらい21地区から鶴見を経て川崎臨海部の東海道貨物支線を通り都心方向へつながる構想がある。また臨海部には、神奈川臨海鉄道が通っている。

レトロバス

レトロ調（懐古調）のデザインを施したバスのことで、観光用に用いられることが多い。

わ行

ワークショップ

もともと作業場、仕事場をさす言葉であるが、様々な人々が集まってグループ作業を行い、解決案を考えたり提案を行うこと。

〈出典参考図書〉

- ・片仮名語の使用について／川崎市／1998
- ・川崎新時代2010プラン／川崎市
- ・都市づくり用語辞典／アーバンルネッサンス社／1987
- ・カタカナ実用辞典／ぎょうせい／1993
- ・現代用語の基礎辞典2000／自由国民社
- ・情報・知識 inidas1998／集英社
- ・川崎区の史話／川崎区史研究会／1996

川崎市
都市計画マスタープラン
川崎区構想 区民提案

発行日 平成12年9月

発行者 都市計画マスタープラン川崎区構想
づくり区民ワークショップ
(事務局)

川崎区役所総務部区政推進課
まちづくり局計画部都市計画課
〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電 話 044 (200) 2713

FAX 044 (200) 3969

E-mail 50tosike@city.kawasaki.jp

編集者 (財) 国土開発技術研究センター
(株) 都市環境研究所